

中学校 社会科 部会

部会長 大任町立大任中学校 校長 安藤志保美
研究員 糸田町立糸田中学校 教諭 石井 浩二
実践者 川崎町立川崎中学校 教諭 吉村 祐介

1 研究主題

思考力・判断力・表現力を高める社会科学習指導の工夫

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

学習指導要領での社会科の目標は、「国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことである。その目標実現のために、社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させることが求められている。現代社会が、情報化や国際化により急激に変化し多様化している中で、これからの社会を担っていく子どもたちには、社会的事象を単なる知識としてとらえるだけにとどまらず、知識を活用し、自分の考えを持つ力、またそれらをまとめ表現する力が必要である。

以上の理由により、生徒の思考力・判断力・表現力を高めることが必要であると考え、本主題を設定した。

(2) 生徒の実態から

田川地区の子どもたちを取り巻く教育環境は必ずしも恵まれているとは言えず、学力向上は喫緊の課題であり、いわゆる二極化も進んでいる。そこで、基礎基本を身につけさせると同時に、思考力・判断力・表現力をバランスよく、効率的に高めていくことが必要であると考え、本主題を設定した。

3 主題の意味

(1) 「思考力」とは、社会的事象がその他の様々な社会的事象とどのようにつながっているのかを推察し、追究する力であると考え。

(2) 「判断力」とは、社会的事象を様々な視点から見つめ、その社会的事象の価値に対する自分の考えを持つ力であると考え。また、社会的事象に対する価値判断を行うためには、様々な思考活動で社会的事象を把握することが必要不可欠であるため、「思考力」と「判断力」は相互に作用しあうことで高まっていくと考える。

(3) 「表現力」とは、社会的事象に対して、思考・判断した結果を、文章等でまとめ、伝える力であると考え。

4 研究の目標

資料から読み取ったことをもとに自分の考えを記述する活動と、他者との意見交流を行う活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

5 研究仮説

学習過程において、次のような手立てをとれば、思考力・判断力・表現力の向上につながるであろう。

- 資料をもとに、自分の考えをまとめ、記述する活動に取り組みさせる。
- 他者との意見交流を通して、自分の考えを再構築させる活動に取り組みさせる。

6 研究の計画

(1) 単元名 「立憲制国家の成立」(5) 近代の日本と世界ウ

(2) 指導観

- 現在、議会制民主主義を定める日本国憲法の下、民主主義を尊重し責任感をもって政治に参画しようとする国民を育成することは学校教育に求められる極めて重要な要素の一つである。また、18歳への選挙権年齢の引き下げにより、小・中学校からの体系的な主権者教育の充実が一層図られている。第24回参議院議員通常選挙における18歳の投票率は若年層の中では高い割合となり、選挙を通じて社会づくりに関わっていくことへの関心の高さをうかがわせた。

本単元は、中学校学習指導要領（歴史分野）の内容「(5) 近代の日本と世界」の中のウにもとづいて設定している。具体的な内容は、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、条約改正の実現などを通して、立憲制国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを学習する。ここでは、大日本帝国憲法の制定によって当時アジアで唯一の立憲制国家が成立したことに着目させ、立憲制国家が成立して議会政治が始まったことの歴史的な意義や現代の政治とのつながりに気付かせたい。

主権者教育の充実が求められている現代において、立憲制国家が成立して議会政治が始まる過程を学ぶことは、これからの国家・社会の形成者にとって大変意義がある。さらに、現代の政治とのつながりを意識し、国民の意見を政治に反映させるために理想の実現にむけた人々が、懸命に生き抜いた時代を学ぶことも主権者意識を高める上で大変意義がある。

また、生徒たちは12月に生徒会役員選挙を控えており、本単元を通して自治意識を芽生えさせることにもつながると考える。

- 本学級は、男子15名、女子13名、合計28名の構成である。学力・授業・単元についての調査は以下の通りである。

【標準学力分析検査の結果（4月欠席3名）】

段階	5	4	3	2	1
人数	2	10	9	3	1
%	8%	40%	36%	12%	4%

	思考・判断・表現	技能	知識・理解
A	28%	52%	24%
B	56%	36%	68%
C	16%	12%	8%

社会標準得点の分布から3以上の段階の生徒が学級の8割以上を占めている。また、観点別評価段階の全てにおいて、B以上の段階の生徒が8割を超えている。しかし、思考・判断・表現のB以上の割合は他の観点よりも低く、C段階の割合も高い。

【授業についての社会科事前アンケートについての結果】

課題解決方法（アンケート）			発表についてのアンケート			
一人	ペア	グループ	得意	まあまあ得意	まあまあ苦手	苦手
12%	36%	52%	20%	44%	24%	12%

課題を解決する方法として自分に適しているものは何かというアンケートでは、グループやペアなど複数で解決していくことが大部分を占めており、一人で解決する方法についてはクラスに3名程度しかいないという結果であった。発表についてのアンケートでは6割以上の生徒が得意、まあまあ得意という回答が得られた。しかし、普段の授業の様子においては、指名されれば発表するが自分から挙手して発言できる生徒は5名程度しかいない。このことから、クラス全体の場で自ら発表する事に関しては、苦手意識をもつ生徒も多くいると考える。

調査結果から、人物によって語句の結びつけには大きな偏りがみられ、全て正答している生徒はわずか4名しかいなかった。また、語句の意味と人物が行ったことを説明できるのは、伊藤博文だけであった。これは、明治に活躍した人物についての理解度が低いとともに、関心・意欲の面においても課題がある結果だと考える。

【単元に関する調査】

次の人物と関係があると思われる語句の点を結びなさい。						
	百瀬隆一-西南戦争	板垣退助-自由民権運動	大久保利通-岩倉使節団	伊藤博文-内閣制度	大隈重信-議院内閣制度	後藤純一-小村大蔵-条約改正
正答率	60%	60%	35%	76%	28%	20%

- そこで本単元の指導にあたっては、グループ学習による対話活動で答えを導き出すなど、共同的な学習活動を取り入れたい。授業において一つの課題を与え、複数で思考し、諸資料から判断し、発表等で表現するという過程を経ることで能動的な学びにつながると考える。また単元の理解がより深まるものとするために、明治に活躍した人物を中心にグループ学習を進めていきたい。

具体的にはまず、議会政治が始まる理由について人物を中心に考え、グループで考察させる。ここではジグソー学習を取り入れることにより、他の生徒からの新しい発見や教えることによって理解が深まるという経験を積ませることで、意味のある学び合いの場ということを意識させたい。次に、憲法がつくられるまでのあいだに、どのような運動がくり広げられたのか、それに対して、政府はどのような対応をとったのか、民間の動きと政府の動きを表にまとめさせ、対立の様子をつかませたい。さらに、内閣制度の成立や憲法の制定が国際的地位の向上に役立ったことを理解させ、近代国家としてのかたちが整えられていったことを学習させる。最後に、条約改正までの道のりをグループでまとめ、近代国家としての整備がどのように改正へと結びついたので説明させる。これまで学習した、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、条約改正の実現などを通して、立憲制国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを意識させたい。

(3) 単元目標

- 明治維新による近代国家の形成と我が国の国際的地位の向上、近代文化の形成な

ど近代の歴史的事象に対する関心をもち、意欲的に近代の特色をとらえようとしている。
(関心・意欲・態度)

- 議会政治が始まるまでの道のりについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。
(思考・判断・表現)
- 条約改正までにどのような過程があったのか適切な資料を収集し、有用な情報を適切に読み取りまとめている。
(技能)
- 立憲制国家が成立して議会政治が始まり、条約改正を実現した日本の国際的地位が向上したを理解することができる。
(知識・理解)

【写真1】エキスパート活動



【写真2】ジグソー活動



(4) 単元指導計画 (4時間)

時数	学習活動・内容	評価規準				評価方法
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識理解	
1 (本時)	士族の反乱や自由民権運動についてグループで考察することで、議会政治へと進む道のりを個人でまとめる。 ・続発する士族の反乱 ・国会開設の要求		当時の人々が行った政治を踏まえ、議会政治が始まる理由を自分の言葉でまとめることができる。			ワークシート
1	憲法がつくられるまでのあいだ、どのような運動がくり広げられたのか表にまとめる。 ・憲法をめぐる対立と国会開設の公約 ・政党の結成と運動の激化			自由民権運動の展開について、私擬憲法の作成、政党の結成や急進化の動きなどを政府との対立を軸にまとめている。		ワークシート
1	明治政府がどのような国をつくろうとしたのか説明する。	大日本帝国憲法のもとで、国の			帝国憲法が制定された過程・内	ワークシート 様相観察

	<ul style="list-style-type: none"> ・内閣制度の成立 ・大日本帝国憲法と教育勅語 	しくみをどのように定めたのか考えようとしている。			容をつかみ、さまざまな制度が整えられたことを理解している。	
1	<p>幕末から続く外交課題である不平等条約の改正までの道のりをグループでまとめ、意見交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帝国議会の開設と総選挙 ・藩閥政府と民党との対立 ・法律の整備 ・条約改正の実現 		近代国家としての制度の整備が、条約改正とどのように結びついたのかを説明することができる。	憲法の制定などがどのように条約改正に結びついたのか資料から読み取ることができる。		ワークシート

7 指導の実際

(1) 本 時

平成29年11月9日 木曜日 第5校時 2年2組教室に於いて

(2) 主 眼

西郷隆盛、大久保利通、板垣退助、地方の人々が行った内容を調べることを通して、議会政治へと進む道のりを自分の言葉でまとめることができる。

(3) 授業仮説

授業の展開部分で、エキスパート学習を行い、ホームグループに戻って互いに情報を教え合い紙上にまとめ、その後クロストーク活動を行うことにより、議会政治へと進む道のりを自分の言葉でまとめることができるであろう。

(4) 準 備

ワークシート、プロジェクター、白紙、マジック、補足資料

(5) 展 開

	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準 (方法)	形態	配時
導 入	<p>1 議会政治とは何か発表し、現在の政治とのつながりに気づかせる。</p> <p>2 衆議院選挙を話題に、国民の代表者が政治に参加するようになったきっかけを考える。(問いづくり)</p>	○ 江戸時代から明治時代になり、国民が政治に参加する政治体制への移り変わりをみせたことを説明する。また、その政治体制が現代の政治体制にもつながっていることを説明する。	一 斉	5分
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">めあて : 議会政治が始まった理由を考えよう!</div>				
展 開	<p>3 西郷隆盛、大久保利通、板垣退助、地方の人々について、班で分担した項目を確認する。</p>	○ 調べた内容をワークシートで確認させ、エキスパート活動でスムーズに情報共有できるように促す。	個 人	5分

	<p>4 エキスパート活動（思考づくり1） 同じ項目を分担した生徒を集めて、伝える内容の意味を確認し、新たに配布した資料を読み取る。</p> <p>5 ジグソー活動（思考づくり2） 4人グループに戻り、互いに情報を教え合い、議会政治へと進む道のりを書く。</p>	<p>○ 同じような意見で、話し合いが停滞してしまう可能性があるため、新たに追加の資料を提示する。</p> <p>○ 実りある話し合いになるように、話し合いのルールを掲示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマに集中して話をしましょう。 ・ 一人で長く話すことは避けましょう ・ 他の人の意見は肯定的に聞きましょう。 </div>	<p>グループ</p> <p>15分</p>
まとめ	<p>6 クロストーク活動（思考づくり3） 理由をもとに意見を発表し合う。</p> <p>7 議会政治が始まった理由を自分の言葉でまとめる。（価値づくり）</p>	<p>○ 発表する際には、自分の言葉で相手にわかりやすく話すように促す。</p> <p>○ 他の班の発表を聞く中で、わからないところや納得のいかないところがあれば必ず質問させるようにする。</p> <p>○ 一つではなく、複数の内容を統合してまとめるように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇評価【思考・判断・表現】</p> <p>当時の人々が行った政治を踏まえ、議会政治が始まる理由を自分の言葉でまとめることができる。</p> </div>	<p>グループ</p> <p>個人</p> <p>10分</p> <p>5分</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>まとめ : 西南戦争によって、武力ではなく言論による政治改革の動きが強まる中で、自由民権運動が全国に広まり、議会政治のきっかけをつくった。</p> </div>			

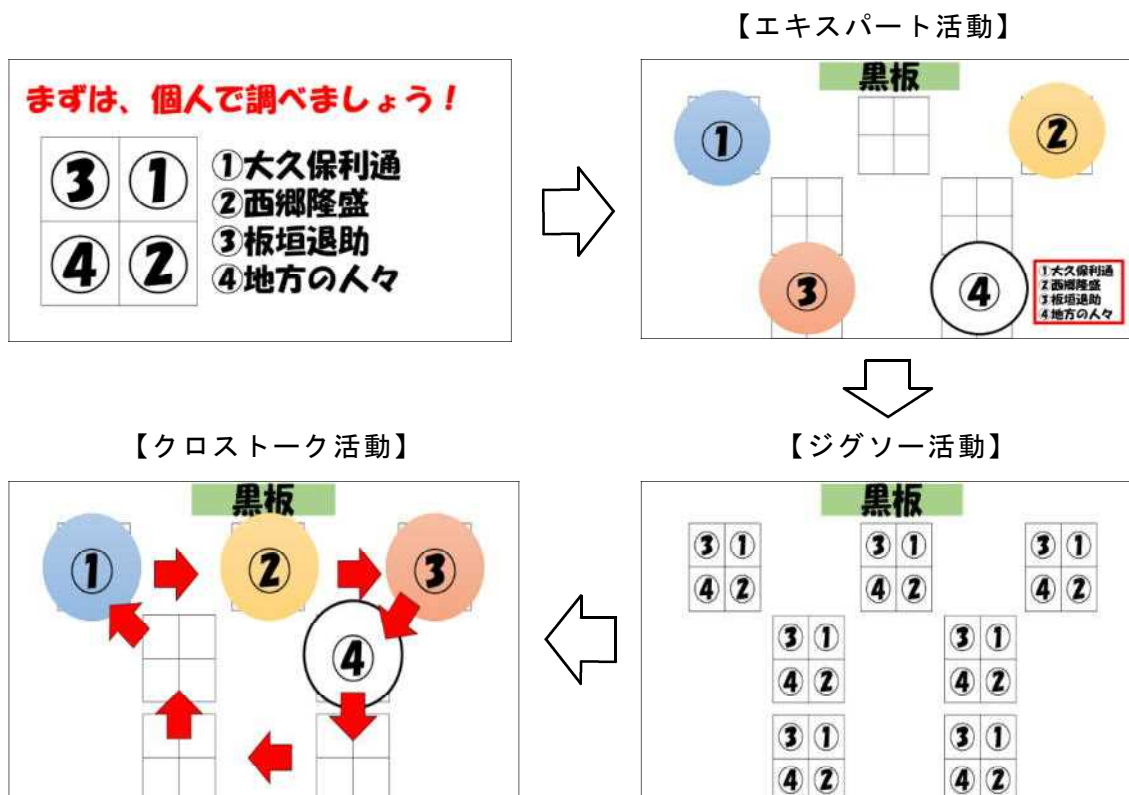
【写真3】 クロストーク活動1



【写真4】 クロストーク活動2



(6) 学習形態



【知識構成型ジグソー法による協調学習】

ステップ 1	課題について各自が自分で考えをもつ（自分の考えを書く）。
ステップ 2	エキスパート活動－課題を通常 3～4 人で学び、自分の言葉で説明できるように準備する（自分の考えを書く）。
ステップ 3	ジグソー活動－各エキスパートを担当してきた者で組み、異なる視点を出し合い課題を解決していく（グループとしての考えを書く）。
ステップ 4	クロストーク活動－ジグソー活動で作上げた考えを教室全体で発表し合う（今回の公開授業ではエキスパート活動のグループで行った）。
ステップ 5	課題について最後にもう一度自分で考えを出す（自分の考えをまとめて書く）。

※ 本年度、県重点課題研究指定中間報告会での飯塚市教育委員会作成の研究要録を参考に作成

8 研究のまとめ

思考力・判断力・表現力等の資質・能力は、各学校段階及び各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせた学習活動を通して育成される。そして、この学習活動を繰り返すことによって、「見方・考え方」がさらに豊かなものになり、主体的・対話的で深い学びへとつながっていく。今回の公開授業研修会では、「土族の反乱や自由民権運動についてグループで考察することを通して、議会政治へと進む道のりを自分の言葉で

まとめる」というテーマで学び合い活動を行った。川崎中学校で行われた学び合い活動は、エキスパート活動、ジグソー活動、クロストーク活動を取り入れ、資料をもとに個人の考えをまとめ、意見交流を繰り返しながら、考えを深めていく知識構成型ジグソー法による協調学習の取組であった。公開授業の日、生徒達は、資料を読みとり考えをまとめ、積極的に議論を交わし、すべての生徒が授業に集中していた。公開授業が5時間目であったにもかかわらず高い集中力を維持し、自分のこととして課題をとらえようとする姿はとても参考になった。様々な活動の工夫があり、生徒が生き生きと活動に参加していたことから、本部会の研究主題である「思考力・判断力・表現力の育成」において有効であったと考える。事後研修会では、様々な角度から活発な意見交流をすることができ有意義な研修ができた。この日の公開授業研修は、これから先の田川郡の先生方のモデルとなり、授業改善を大きく進めていくものとする。

9 成果と今後の課題

(1) 成果

- 事前の学習として、西郷隆盛、大久保利通、板垣退助、地方の人々が行った政治の内容から各自に1つを選ばせ、自力で学習させたことが、自分の考えをもつことにつながった。
- 導入段階での、フラッシュカードを活用した既習内容の振り返りは、テンポが良く子どもたちの集中力を高め、課題に対する動機付けにおいて有効であった。また、低学力生に対して、知識の定着を図る一方途を示して頂いた。
- 既習内容の振り返りからめあてにつなげたことで、生徒の学習意欲が高まり主体的に学習に取り組む姿勢が生まれた（問いづくり）。また、めあてが一人では十分な答えが出せないような問いになっていたため、グループ活動の必然性が生まれ、スムーズにグループ活動に移ることができた。
- エキスパート活動（思考づくり1）では、自分たちの選んだ課題を追究し、自分の言葉でまとめさせたことで、「自分には言いたいことがある」という意識をもたせることにつながった。
- ジグソー活動（思考づくり2）では、一人では十分な答えが出せないような問いに対して、「自分だけが知っていることを伝えたい」や、「知っている人から聞きたい」という意識が交差し、自然と課題解決活動が活発になった。
- クロストーク活動（思考づくり3）のあと、再度、各自に議会政治が始まった理由を自分の言葉でまとめさせたこと（価値づくり）で、「私の考えは話し合って良くなる」ことや、「各自違う意見を比較、関連させると答えが見える」ことを実感させることにつながった。

(2) 今後の課題

- 新学習指導要領の中学校社会科の目標には、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して」と示されている。そこで、今回の公開授業研修のように複数の資料（視点）を、分類・集約、比較・関連づけ、総合させることを通して、自分の言葉で解決する活動を仕組んでいくことで「主体的・対話的で深い学び」につながると考える。ただし、知識構成型ジグソー法による協調学習は手段の一つである。どこで実施するのは年間指導計画に明確に位置づけることで、時間確保に努めることが大切である。